

# 中海は宝物

未来守りネットワーク活動記

<10>

前回は「共存共栄」のお話をしました。自然は時には厳しい表情を見せますが、再生できないほど傷めつけることはありません。しかし、人の営みは、貴重な動植物を根こそぎ死滅させる可能性を秘めています。これは中海も例外ではないのです。

中海で毎年、アサリの稚貝が大量発生することを存じでしょうか。国の機関の調査によると、日本国内でアサリ発生率が最も高いのは、愛知県の三河湾が中海ではないかと言われています。

近年、中浦水門の撤去や森山堤防の開削により、外海から境水道を通じての海

## アサリ大量発生

水流入が良くなりました。浅場(水深1〜3㍎)の海水の透明度が高くなり、アサリの餌となる有機物も大量に発生し、アサリが生きやすい環境ができたのではないかと思われまます。

アサリの生息域については、漁業者の皆さんと未来守りネットワークが協力し、毎年少しずつ調査してきました。開削前は境水道周辺海域の方がアサリの生息数が多かったのですが、

## 浅場の再生が重要課題

ここ1、2年の調査によると、境港市渡町から米子市大崎地区にかけて海域に大量の稚貝が発生しています。

特に鳥取県や国土交通省出雲河川事務所が浅場再生事業を実施した場所で、ア

サリが多く見られるようになります。中海の再生に取り組む上で、浅場の再生を進めることは重要課題で

サリが多く見られるようになります。中海の再生に取り組む上で、浅場の再生を進めることは重要課題で



成長を願い、中海にアサリの稚貝を放流する米子南高校の生徒たち

未来守りネットワークは、未来守りチャイルドクラブや米子南高校の生徒、各漁協と協力して、2008年からアマモ再生とともにアサリの稚貝放流を行います。大きな成果を挙げたいです。

中海の自然環境は厳しく、大量に発生したアサリが自然災害(台風や豪雨に伴う淡水化)により、稚貝だけでなく、ようやく育った成貝まで死滅することがあります。しかし、2年すると、アサリの稚貝はまた再生しているのです。自然は決して、根こそぎ取り去ることはないようです。

中海の水質浄化にも寄与しているアサリが大量に生き残れるよう、調査・研究することが、中海の水産業の復活につながると思います。(未来守りネットワーク理事長・奥森隆夫)